

抗酸菌塗抹検査を契機に検出に至った *Exophiala dermatitidis* による肺黒色真菌症の 1 例

◎河原 菜摘¹⁾、瀬筒 彩音¹⁾、上田 かさね¹⁾、虎清 夏海¹⁾、荒木 敏造¹⁾、山口 尚子¹⁾、舛田 昭三¹⁾
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院¹⁾

【はじめに】*Exophiala dermatitidis* は黒色真菌症の原因菌の 1 つで、一般的に皮膚など表在部の感染が多いが、まれに肺などの深部感染症も引き起こすとされている。今回我々は、抗酸菌塗抹検査を契機に検出に至った *E. dermatitidis* による肺黒色真菌症の 1 症例を経験したので報告する。

【症例】60 代、男性。肺 NTM 症疑いで数年に 1 度当院を受診していた。20XX 年 9 月に前医で健診を受け、胸部レントゲン検査で異常を指摘された。11 月に二次健診目的で当院を紹介受診。CT 検査で NTM 様陰影の増悪を認め、気管支鏡での精査目的で 12 月に入院となった。

【微生物学的検査】気管支鏡検査で吸引痰と気管支洗浄液の培養検査が提出された。気管支洗浄液の抗酸菌塗抹検査 (Ziehl-Neelsen 染色) で糸状菌を疑う所見を認めた。検体提出時に真菌に関する依頼はなかったが、サブロー培地を追加し真菌培養を実施した。培養 5 日目に黒色真菌を疑うコロニーの発育を認めた。黒色酵母様のコロニーであり、形態学的特徴から *E. dermatitidis* が疑われた。

最終的に質量分析で *E. dermatitidis* と同定された。

【考察】患者は以前から肺 NTM 症を疑われていたが経過観察となっていた。今回当院 CT 検査で NTM 様の陰影が増悪していたことから気管支鏡検査が実施された。気管支洗浄液の抗酸菌塗抹検査が依頼され、鏡検時に糸状菌を疑う所見を認めた。真菌培養の依頼はなかったが真菌用培地 (サブロー培地) を追加することで *E. dermatitidis* の検出に至った。気管支鏡検査時に採取した吸引痰からも同様の菌が発育し、*E. dermatitidis* による肺黒色真菌症と診断された。当院の運用として真菌培養の依頼がない場合は真菌用培地を使用しておらず、培養時間も 48 時間としているため、真菌培養の追加をしていなければ本菌の検出は難しかったと考えられる。

【まとめ】今回の症例では、本来真菌を目的としない検査を契機に本菌検出に至ることができた。目的菌はもちろんであるが、それ以外にも広い視野を持って日々の検査を行う必要性を認識した症例であった。

連絡先:092-721-0831 (内線 2373)